

天平のひろば

2003年11月

第9号

特定非営利活動法人
発行者 石倉守三

平城宮跡サポートネットワーク / 会報
奈良市二条町二丁目9番1号 奈良文化財研究所内
〒630 8577 電話 0742 - 30 - 6752
E mail : honbu-nara@HEIJYONET.com
http://www.HEIJYONET.com

平城宮跡で秋のビッグイベント 奈文研とNPO共催

スタンプラリー・和風つくりと風揚げ・天平の衣装

イベント - 1 スタンプラリー

11月3日、文化の日は統計的に晴れの確率が80%だそうです。しかし今年は残りの20%になりそうだと予報が出ていました。予報どおり朝から雲行きが怪しく、ラリーが始まる頃には本降りになってしまいました。前回も小雨でしたが今回も又雨で、参加者が来ないのではと心配でしたが、50名以上の方が雨の中を平城宮跡解説ボランティアの説明を聞きながら指定の4箇所スタンプを押してスタートの資料館に戻ってきました。

途中では傘を片手に、もう一方の手にはスタンプの台紙を持ち、濡らさないようにと台紙に注意が集中、気がつけば背中がびしょ濡れという光景も見られました。普段雨の宮跡を歩くことはなく白くかすむ朱雀門も趣があって良いものだと言う人もいま



たが負け惜しみだったのでしょうか？
ああ、雨で疲れた！
いいながらも顔はニコ

ニコ、次回こそは快晴の下で歩きたいねと話しながら無事終了。お疲れさんでした。

イベント - 2 和風つくりと風揚げ

今年は恒例のスタンプラリーに併せて総合イベントの一環として「和風つくりと風揚げ」を「なら風の会」の皆さんのご協力を頂き開催しました。

当日は生憎の雨で風揚げは出来ませんでしたが、65名の方が参加され、風づくりに挑戦されたのが大人・子供合わせて40名、「なら風の会」の方々の指導で製作手順の説明を聞いたあと、早速風づくりを開始、先ず風の図柄を書くことからスタート。

平城宮跡らしく出土鬼瓦の文様を図柄にする人や

どらえもんを書く人、思い出の絵を和紙に書いた後、竹ヒゴ



で風の骨作りをし、ボンドで丁寧に接着、その後糸をつければ完成。参加した子供達も熱心に取り組み素晴らしい風が完成して大喜びでした。中には親の方が熱中しておられる組もあり、和気あいあいの賑やかな雰囲気の中で行われ楽しい一時でした。

今回は是非とも風づくりの後、宮跡広場で風揚げをと言う声が多く、風揚げが出来なかった残念な気持ちを胸に完成した風を濡れない様にビニール袋に入れて大切に持ち帰られました。後日平城宮跡で揚げられたか、ご近所のどこかで揚げられたか、きっと天高く大空に舞い上がった事でしょう。

これからも平城宮跡を色々な目的で訪れ、利用される方々が本当に楽しく過ごして頂ける様な所にするための様々な活動を、NPOを通じて行っていきなりたいと思っています。

イベント - 3 天平の衣装

「きて、みて、知ろう - 天平の衣装」というテーマで天平時代の衣装を紹介するイベントが行われました。とにかく平城宮跡に「来て」ください、きっと楽しいことがありますよ、天平の衣装を「着て」みる「見る」ことも出来ます。天平の衣装を知ってもらおうという企画でした。

「秋の空に天平の衣装」はきっと華やかだったでしょうが生憎当日は雨になってしまいました。でも生憎の雨にもかかわらず沢山の方が参加され、始終和やかな雰囲気の中で、当時の衣装に詳しい林さんによる織物、貴族の衣装、庶民、子供の衣装等の優



い解説のあと、皆さんに準備した衣装を着ていただきました。参加された方も積極的に衣装を身に着け、写真

に納まり、中にはモデルになったつもりではしゃぐ人も・・・参加された方全員が初めての経験で楽しい時間を持てたと喜んでおられました。

平城宮跡 秋の特別公演会

「古代建築の復原」

元奈良国立文化財研究所長 鈴木嘉吉先生

11月8日平城宮跡資料館講堂で当NPO主催による秋の特別講演会が開催されました。

「古代建築の復原は何を根拠に、どんな手順で復原されるか？」をテーマに鈴木元所長の長年に渡る調査研究と復原実例、そして今も残る古代建築のスライドを見ながら大変分かり易い講演をしていただきました。以下はその要約です。

古代の遺跡を発掘調査するとさまざまなことが分かってきます。その成果を広く国民が理解し、活用するために古代建築の復原という手法があります。

平城宮跡で最初に復原したのは、75年の宮内省南殿であり、その後東院庭園や朱雀門が復元され今は大極殿となり復原の総仕上げの段階に入りました。

これとは別に南都諸寺は寺院を復興して「国土莊嚴」の願いがあり、薬師寺の故高田好胤さんは百万巻写経で遂に伽藍全体を復原しました。



また興福寺も中金堂復原の計画を進めており、いま奈良は古代建築の復原ブームとなっています。

1. 古代建築は比較的復原し易い - その理由は

- 古代建築の平面構成は身舎・庇・裳などからなっており簡明である。
- 平面構成が即建物の格式を表わしている。例えば身舎だけより四面庇建物の方が上格である。
- 格式により基壇の形式・組物や軒の形式に一定の約束ごとがある。
- 構造即意匠で最小限の部材で構成されている。
- 復原の参考になる古代建築が多く残っている。法隆寺以降天平に至る古代建築31棟は全部奈良県にある。

2. 復原の順序は以下の通りに行なう

- 発掘や文献により復原建物の年代・性格・用途・格式などを読み取る。
- 柱間寸法から柱径、柱高の他に各部材の太さ(比率)を仮定する - これを「木割」という。
- 軒の出寸法による組物と軒形式(断面詳細)を仮定する - これを「矩計」という。
- 架構、屋根形式を仮定する - 入母屋は日本人好みだが中国では寄棟が上格とされている。
- 木割や矩計を元に断面図から設計図を起こす。
- 10分の1の模型を作り検討をする。
- 遺構の保護や構造・防災の面から安全性を確保する。
- 復原建物の最終設計をし、施工に移る。

結び

復原とは学術資料5分、設計者の感性5分ですが、感性には実物を多く見た経験が反映します。復原建築とは言え千年後代まで持たせたいので本体を出来るだけ現代の材料や工法で傷つけないよう分離するなど、さまざまな工夫をしています。

平城宮跡冬の野草

平城宮跡隠れファン 典B

<http://homepage2.nifty.com/tenb/>

冬の平城宮跡で目につく花は、“野草”ではありませんが、サザンカです。朱雀門付近が一番多いのですが、他にもあち



サザンカ 00.01.08 撮影

こちで咲いています。サザンカは常緑樹だと思うのですが、今年の秋にはまるで落葉樹のようになっているものがありました。異常気象か何かの

せいでしょうか。ツボミがついているので枯れてはいないと思いますが。



サザンカは落葉樹？
03.10.30 撮影

多くの野草にとって冬は休眠の季節です。しかし、ちょっと探してみると、案外咲いている花も多いことに気づきます。いくつかをご紹介しますよ。

これは小さなスミレです。何スミレなのかよくわ



小さなスミレ
99.12.26 撮影

かりません。第二次大極殿の北隣にある内裏跡で、溝の石組の間に咲いていました。こんな養分の少なそうな場所でよくがんばって咲いているものだと思いましたが、溝掃除のときに容赦なく抜かれてしまいました。石組の間に植物の根がはびこることは遺跡保全のためには好ましくないのかも知れません。

これはホトケノザです(春の七草のホトケノザとは別物だそうです)。春暖かくなってからよく見られる花ですが、まだ寒い間から咲いていることもあります。



ホトケノザ
00.01.08 撮影

ナズナも早くから見かける花です。昔の人は花の咲く前の葉を摘んで七草粥を作ったのでしようけれど、今はナズナの葉を見分けられる人も少ないでしょうね。

下の写真は菜の花に似た花ですが、何でしょうか。図鑑で見るとハナナというのに似ています。遺跡資料館の前の水路脇で冬の日差しを浴びていました。おそらく、本来はもっと暖かくなってから咲く花でしょう。



ナズナ
00.02.12 撮影



ハナナ？
00.01.27 撮影

寒風の吹き抜ける冬の野の片隅でこのように健気に咲いている花を見つけると、元気がわいてきます。ただ、ここでご紹介した花は、何かの条件や偶然が重なって咲いたのかも知れません。毎年同じ花が咲くかどうかはわかりません。逆に言えば、もっと他の花にお目にかかるチャンスもあり

そうです。

冬の野草の定番と言えばオオイヌノフグリでしょ

う。“冬の野草”というより、“冬の間から咲き始める春の野草”と言うべきでしょうか。草むらの中で控えめに春の訪れを告げるこの花のファンは意外と多いようです。

オオイヌノフグリの咲くころ

には、ハコベの仲間も白いツボミをのぞかせて春の到来を待っています。



オオイヌノフグリ
00.02.12 撮影

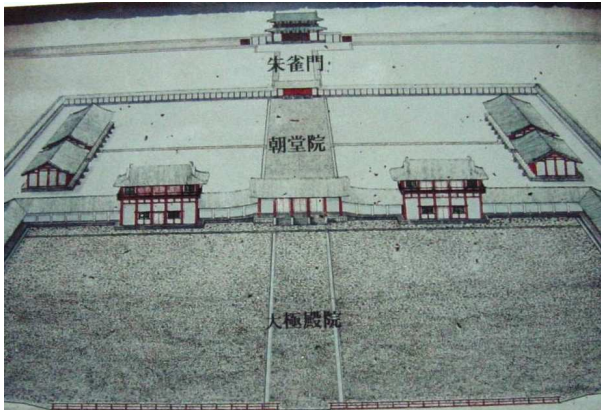
平城宮跡 - ここが見どころ

「大極殿復原工事公開施設」

石倉 守三

今年4月から公開されている大極殿復原工事公開施設についてはご存知の方も多いと思いますが、残念ながら未だ来訪者が少ないのが現状です。

しかし私はこの公開施設の2階南側テラスから朱雀門などを眺める景色は、平城宮跡の中でも大好きな景色の一つです。



このテラスは大極殿からかなり南に位置しますが、高さは基壇とほぼ同じだと思います。従って、ここから眺める平城宮の風景は、その昔、元明天皇、元正天皇や聖武天皇も眺めたであろう景色に思いをさせるに最適の場所だと思うからです。

正面手前の広場には役人達が並び、天皇を拝したでしょうし、その向うの閤門をくぐると朝堂院があり、東西夫々2棟の長い建物があって、更に南の閤門をくぐると朱雀門につながる。そこで繰り広げられたであろう事などを想像しながら眺めると自分が天皇になったような錯覚にとらわれる気分です。

更に遥か彼方を眺めてみると、西に垂仁天皇陵が森のように見え、そこから南を望むと唐招提寺の金堂修理の素屋根が見えます。さらに南に薬師寺の東西2塔の相輪が見えます。今のよう高い建物がない奈良時代では金堂や塔などがくっきりと見えたことでしょう。目を東に転じてみると大安寺の大伽藍も望めたのではないのでしょうか。

今は工事の建物で西東が見えませんが、東には東大寺の七重の塔や大仏殿、その南に興福寺の大伽藍、更に南には元興寺が。天皇はそんな景色をここから眺めたのではないのでしょうか。

ついでに、東の春日山から山沿いに吉野方向まで眺めてみると、空気が澄んだ晴天の日などには三輪

山から耳成山、香具山、甘櫨丘、明日香から吉野に至る山々が望めます。大極殿に出られた天皇はこんな景色も見られたはずですよ。

このテラスから南を眺めると思わずこんな想像をしてみたくなる、歴史のロマンってそんな事ではないのでしょうか。私はここでお客様に求められて話し出すと、いろんな話をしますが、皆さんはどう思っているのでしょうか。

平城宮跡は想像し、歴史のロマンに触れる所、その最適な場所のひとつがここだと思います。皆さん是非この大極殿復原工事公開施設を訪ねて、奈良時代の歴史に思いをめぐらしてみても如何でしょうか。

「一目でわかる平城京」

中井 啓二

遺構展示館の西側にあるタイルで出来た平城京地図をご存知でしょうか？ 春、夏は周囲が青々とした草に囲まれ目に付きにくいですが、秋から冬にかけて草がなくなるとはっきりとその姿が現れてきます。

1枚のタイルの大きさを当時の1坪にして敷き詰め、500分の1の大きさを平城京全体を表現しています。さらに平城宮の部分をも一段高くしてその位置がよく分かるように工夫をしています。タイルには東大寺、興福寺、薬師寺、秋篠



川、佐保川、官営であった東西の市場、羅城門等々、当時の重要な場所が描かれ、また条坊も書かれていて一目で平城京の姿、位置関係が良く分かります。この上に立てば奈良の都にいるガリバーになったような錯覚に陥ることもあります。

貴族になったつもりで朱雀大路を歩きながら天平の都、庶民の生活を思い描くのもまた楽しいではありませんか。

「ボランティア・NPOフォーラム奈良」に参加！ NPO活動紹介パネル展示

石倉守三

去る10月5日(日)奈良県主催の「ボランティア・NPOフォーラム奈良」が県文化会館にて開催されました。この催しは奈良県がボランティア・NPOとの協働を推進するための基本方針を策定、それを契機にボランティア・NPO活動への理解と活動の輪を広げるとともに、その為の新たな出発点とするために開催されたものです。



当NPOでも積極的に行政機関との協働を願っていたので、「活動をパネル展示する団体」

「パンフレット資料などで紹介する団体」と「作品の展示販売などをする団体」の募集内容の内、パネル展示の部に参加し、各部会の活動パネルを展示し、併せて11月の各種イベントのチラシと当NPOへの入会案内などを展示した。

更に当日は基調講演会や各種シンポジウムなども行われ、多数の一般の方や関係者が参加され賑やかな催しであった。我がNPOも他のボランティアグループから色々ご質問やご意見も頂き、環境活動で協力したいとお話もあって、有意義な時間を過ごす事が出来た。今後は行政機関との協働と共に他のボランティア・NPOとの協力関係構築も重要であることを痛感しました。

「奈良市文化観光ボランティア連絡会」が発足

石倉守三

今般、奈良市内で活動している観光ガイドボランティアや関連NPO団体が集まって相互協力と意見交換をする場を設けようと「奈良市文化観光ボランティア連絡会」が結成され、10月25日(土)に第1回連絡会が鴻池のボランティアセンターで開催されました。

奈良市内で活動している6団体の代表が参加し、連絡会の名称と今後の運営については年2回(春・秋)程度の開催、相互交流・イベントへの相互協力参加・遷都1300年記念事業への対応などを目的



にしてはどの意見交換が行われました。

今回は第1回目でもあり各団体の活動状況などの紹介が中心

でしたが、今後は更に意見交換を進めていくことになりました。なお、次回は来春当NPOが幹事になって開催する事になりました。

今回参加の団体は：

NPO平城宮跡サポートネットワーク

奈良YMCA善意通訳協会

奈良学生ガイド

NPOなら・観光ボランティアガイドの会

奈良SGGクラブ

奈良市女性ボランティア協会

今後は各団体が相互協力し合い、ボランティアネットワークを広げ、夫々、単独では出来ない活動が開発できるようになる事を期待したい。

出前拓本教室 相和小学校で開講

西上和雄

奈良市の東部、平城宮跡保存の先駆者棚田嘉十郎の故郷、隠れた桜の名所でもある須川ダムのほとりにある相和小学校から「拓本つくり学習」の要請を頂き、11月12日(水)わが出前拓本教室がめでたく開講しました。

対象は6年生18名。担任の池縁先生の周到な学習計画「小さな学者になって奈良の都



を調べよう」のテーマに従い、木簡から地方の国名や所在地、当時の税の一つである調を仲介とした奈良の都との結びつきなどの学習の後、約45分の時間を頂き瓦についての説明に続いて拓本づくりに挑戦してもらいました。

田中校長先生をはじめ、他の学年担任の先生も聴講に来られたのには驚きました。生徒さんの拓本の出来映えは上々。「こんなに熱心な学習は初めて！」と副校長先生も話していました。

部会だより

教育・文化部会

教育・文化部会はこんなことをやりたい！！

当部会はより多くの人々に平城宮跡を通して奈良時代の歴史・文化・政治・宗教や人々の暮らしなどをより深く理解していただき、その中から世界遺産でもある地下に眠る遺構・遺物の保存、宮跡地の継承の気持ちをより一層高めていただくことを目標に活動しています。具体的には歴史講演会、宮跡内のウォーク、木簡や拓本づくり教室を夫々年2回程度開催、学校の先生方を対象とした平城宮跡学習会、小中学校への歴史、木簡、拓本づくりの「出前学習」などを奈文研の皆さんのご協力のもとに既に実行しています。

新たに発掘体験や出土品などの復原体験、宮跡グラウンドを利用した諸々の作品づくりなども是非やりたいと考えています。

「平城宮跡大好き人間」の拡大が最終目的です。

西上和雄

広報・企画部会

平城宮跡は知られているようで意外と知られていません。資料館に来られた人で朱雀門を知っているが東院庭園、遺構展示館の存在を知らないという人も結構おられます。逆に遺構展示館に来られた人が資料館を知らないという人もいます。

今、平城旧跡には5箇所の公開施設がありますが距離が離れており、お互いに他の公開施設の内容がよく分かりません。資料館、大極殿工事見学棟に大きな掲示板がありますが、他の施設にも設置を要望し、どこの施設に何があるのか、また何が行われているのかが来訪者に分かるように出来ればと思っています。また、この掲示板を利用させていただきNPOの行事、イベント等の広報を推し進めたいと考えています。

中井啓二

環境保全部会

毎週1回のクリーン活動をはじめ、会員有志のご厚意による清掃活動のお陰をもって、宮跡内は随分と美しくなったと思われませんが、問題はまだまだ多数残っています。

1. 来訪者のマナーに係わる問題。
犬の放し飼い、糞の不始末
ゴミのポイ捨て（特に道路沿い）
大型ゴミの不法持込
危険な行為（ゴルフの練習、ラジコン飛行機
花火など）
 2. 宮跡内の標識の不備と老朽化
 3. 自動車の不法駐車や不法侵入
その他の件も含めて、奈良文化財研究所や関係機関と協力し、安全・安心な美しい宮跡づくりに努めていきたいと考えています。
- 橘泰弘

特定非営利活動法人（NPO）

平城宮跡跡トネットワーク入会のご案内

一般市民の知識や経験と想いを結集して平城宮跡の整備・保存・公開活動を支援するNPOに参加しませんか。

会員の種類と年会費

(1) 正会員 個人3,000円 法人10,000円

(2) 賛助会員個人3,000円 法人10,000円

ご入会のお問い合わせは下記まで

〒630-8577 奈良市二条町2 9 1

奈良文化財研究所内

平城宮跡跡トネットワーク事務局

TEL: 0742 - 30 - 6752

E-mail: honbu-nara@HEIJYONET.com

編集後記

いつの間にかあちらこちらで紅葉の話が聞かれる季節になりました。しかし、なんとなく色の冴えない木が多いように思いますが単に私の気のせいでしょうか？ それとも地球温暖化の表われでしょうか？

広報・企画部会を前任者から引き継いで始めての会報発行です。先輩に恥をかかせないようにとの思いで早くから準備を始めましたが、遂に息切れのようです。あせらず、力まず、とって手を抜かず、何事も程ほどが良いようです。そう言えばゴルフも同じですね、プロは別ですが。

(中井啓二)